



# 医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信 第62号



平素は、「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」へのご理解・ご協力ありがとうございます。  
だんだんと寒さが増えていますね。防寒が大事になってくる中、実は私、記憶上マフラーを使用したことがないんです。暑さが先行してしまうので使用してこなかった訳ですが、「大丈夫」と慢心しているうちに体調を崩すのも困るので、さすがに購入しようかと検討中です。マフラーのことだけではありませんが、慢心や油断はミスを誘うので気を付けていきたいものです。

## 第 68 回ワーキング会議 (9/27)

滋賀県庁 北新館 5-8



今回のワーキングは初参加 4 名を含む 38 名にてワーキングを行いました。

〈参加職種：医師・看護師・保健師・介護支援専門員・薬剤師・薬品関連企業・管理栄養士・行政書士・学生・行政など〉

次第	
18:30~	あいさつ・自己紹介
18:45~	テーマ：「誰もがともに働き暮らすことのできる 地域共生社会の実現を目指して」 話題提供者：医療法人藤本クリニック 理事長 藤本 直規 先生
19:30~	グループワーク・発表
20:00	終了

今回のワーキングでは「NPO法人 もの忘れカフェ®の仲間たち」にある「仕事の場」の取り組みや役割をお聞きました。

「仕事の場」では若年認知症の方をはじめ、高度認知症の方、知的・発達・精神の障がいを持った方、社会に適応しづらい方といった様々な方が、袋詰めや加工作業等、自分のペースでできる範囲の仕事がされています。



「仕事の場」は、退職後もわずかでも働いた対価が貰える社会とのつながりの場であり、仲間や様々な支援者と出会えることで、診断後の支援の空白期間をなくす場となりました。又、介護保険サービスへスムーズに移行できる準備の場としても重要でした。（藤本先生 講義資料より）



### グループワーク

- 地域との関わりの中で仕事をしてもらうことで、地域の方も若年性認知症の理解が深まるのではないかと。
- 制度的な支えがないために「仕事の場」のような場所の運営は続きにくく、広がりにくい。制度の整備が必要。
- 若年認知症の人は見た目は普通に見えるため、当事者やその家族内でしか認知されていないことがあり、理解の妨げになっている。
- 若年認知症の人の多くは働き盛りの年代の人。働きたいのに働けないからさらに気が落ち込む。そんな人たちの意欲を引き出して、前を向いて歩いてもらうためには私たちが背中を少し押すことが必要。人は誰しもだれかのためになる何かを持っている。それを見つけるのが私たちの仕事。
- もし自分の職場に認知症の方がおられたら・・・リスク管理という点で、同じ会社で仕事を続けていくのは今の社会では難しい。今後、社会として受け入れられる場を作っていくことが必要である。また一方で、仕事内容を変えて、その会社で働き続けることが本当にその人にとってよいことなのかを考えていかなければならない。私たちが同年代の人と仕事をするのが楽しくなるように、この作業所のような同じ疾患を持った仲間がいる場で働くほうが気持ちが楽になる場合もある。その人の気持ち、症状の進行具合、実際にできること等を照らし合わせながら、本人が納得のいく仕事環境があるほうがよい。
- 作業所が各地域にあればいいが、認知症は進行する疾患のため設置は難しい。今、たくさんできている認知症カフェを利用して仕事の場にするのはどうだろうか。

ご協力をしてくださった方  
ありがとうございました！！

### リレー・フォー・ライフ・ジャパン in 滋賀医科大学

10月13日、14日に滋賀医科大学で開催されたリレー・フォー・ライフ・ジャパンには様々な団体が啓発・体験・飲食等のブースを設け、会場を盛り上げられました。今年も地域創造会議は啓発と飲食（おでん）ブースで出展し、多くの方がおこしくございました。

\*おでんの売上金は、リレー・フォー・ライフ・ジャパンへ寄付しています\*



医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局  
(滋賀県庁 医療福祉推進課内)  
中村愛子・三上有紀子  
TEL 077-528-3529 FAX 077-528-4851  
E-mail info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp